

## P48、49 平安京と東アジアの変化

■奈良時代後半から、貴族や僧の間で勢力争いが起こり、社会が混乱

※さらに、<sup>こんでんえいねんしさいほう</sup>墾田永年私財法により貴族や豪族の荘園が増え、公地公民制が崩れる。  
律令政治は乱れ、天皇の力が弱くなり、貴族が権力を強めていく。

☆そこで…[<sup>1</sup> **桓武**]天皇が新しい都で政治の立て直しをめざした  
{ 784年 [<sup>2</sup> **長岡**]京(山城国・現在の京都府)へ遷都  
[<sup>3</sup> **794**]年 [<sup>4</sup> **平安**]京(現在の京都府)へ遷都

☆平安京が作られてから鎌倉幕府ができるまでの約400年間を平安時代という

### 桓武天皇の政治

■大きな仏教寺院が平安京へ移るのを禁止→僧が政治に口出しできないようにした

(聖武天皇以来ずっと続いてきた仏教政治を断ち切った)

■<sup>たはた</sup>田畑を捨てて逃亡した農民を厳しくとりしめし、再び戸籍に登録。また、貴族や寺院が勝手に<sup>たはた</sup>田畑を開墾したり売買することを禁止した

■8世紀末～9世紀 東北地方の[<sup>5</sup> **蝦夷**]に対して3回軍を派遣

↳ 朝廷の支配に従わない東北地方の民族

☆801年 [<sup>6</sup> **坂上田村麻呂**]を[<sup>7</sup> **征夷大將軍**]に任命



↳ <sup>えみし</sup>蝦夷を討伐するための軍の指揮官

なんとか<sup>えみし</sup>蝦夷を平定する(その後も彼らは朝廷の支配に対して抵抗を続ける)

### 最澄と空海

■9世紀はじめ、奈良を中心としていたそれまでの仏教とは違う、新しい仏教の宗派が中国から伝えられた(※下の二人は遣唐使と共に唐へ留学した僧)

※新しい仏教(密教)の特徴：山奥の寺で厳しい修行を積み、悟りを開く

☆<sup>さいちよう</sup>最澄…[<sup>8</sup> **天台宗**]を伝えた。<sup>ひえいざん</sup>比叡山(滋賀県・京都府)に<sup>えんりやくじ</sup>延暦寺を建てた

☆<sup>くわかい</sup>空海…[<sup>9</sup> **真言宗**]を伝えた僧。<sup>こうやさん</sup>高野山(和歌山県)に<sup>こんごうぶじ</sup>金剛峯寺を建てた

### 遣唐使の廃止

■9世紀 中国の唐では反乱が次々と起こり、勢力が衰える(10世紀初めに滅びる)

☆[<sup>10</sup> **894**]年 [<sup>11</sup> **菅原道真**]の提案により、遣唐使が廃止される

→日本国内でも文化が発達してきたため、わざわざ危険な航海をしてまで唐に行く必要はない、と主張

■唐滅亡後、[<sup>12</sup> **宋(北宋)**]が中国統一

■朝鮮半島…10世紀初めに[<sup>13</sup> **高麗**]がおこり、新羅を滅ぼした

◆平安時代中期：貴族の力が強まる

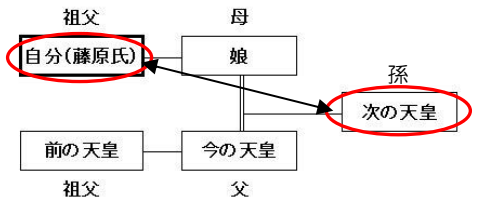
→特に[<sup>1</sup> 藤原]氏が[<sup>2</sup> 摂関]政治を行い、朝廷での勢力を広げた  
 ↳ 亡くなる直前に藤原姓をもらった中臣鎌足の子孫

摂関政治とは

◆[<sup>3</sup> 摂政]…天皇が幼いときや女性の場合、天皇の代わりに政治を行う役職

◆[<sup>4</sup> 関白]…天皇が成人した後、天皇を助けて政治を行う役職

- ①自分の娘を天皇の<sup>きさき</sup>后にして天皇家と親戚関係になる→娘が生んだ子(孫)を次の天皇にする
- ②自分は、幼い天皇の祖父として<sup>せつしやう</sup>摂政になる
- ③天皇成人後も、<sup>かんぱく</sup>関白として政治権力を独占



※ 「次の天皇」にとって「自分」は祖父にあたる。

☆摂関政治の最盛期：11世紀前半の藤原[<sup>5</sup> 道長]・藤原[<sup>6</sup> 頼道]父子のとき

◆藤原氏の私有地である[<sup>7</sup> 荘園]が拡大：国家権力が荘園に干渉できなくなる

☆<sup>ふゆ</sup>不輸の権：<sup>しやうえん</sup>荘園(土地)を持っていても、税を国に払わなくてもよい権利

☆<sup>ふにゆう</sup>不入の権：国司など国の役人が荘園に立ち入ることを禁止できる権利

◆朝廷の重要な地位はほとんど藤原氏とその親戚が独占するようになり、藤原氏と関係のない他の貴族たちは、京都から離れた地方の国司になれただけでも喜んだ。

→政治は朝廷ではなく藤原氏の屋敷で行われ、「天皇中心の政治」は崩れ去った…

国風文化

上品で優美!

◆平安時代中期の貴族たち…中国(唐)の文化を消化し、日本の風土や感情に合った文化を生み出した=[<sup>8</sup> 国風]文化

☆[<sup>9</sup> かな文字]：漢字を変形させ、日本語の発音を表せるようにした文字

→これによって優れた文学作品が生み出された

例：『<sup>10</sup> 古今和歌集』(紀貫之などが編集)

<sup>むらさきしきぶ</sup>紫式部の『<sup>11</sup> 源氏物語』、<sup>せいしやうなごん</sup>清少納言の『枕草子』

☆建築：貴族が住む屋敷=[<sup>12</sup> 寝殿造](右図)

☆絵画：<sup>やまとえ</sup>大和絵…のちの日本画の原型

☆服装：<sup>じゆうにひとえ</sup>十二単…貴族の女性が何枚も重ねて着る

両方とも女性による文学作品



<sup>しんでんづくり</sup>寝殿造 模式図

浄土信仰

◆10世紀半ばから社会が乱れ始め、人々の不安が高まった→[<sup>13</sup> 浄土信仰]がおこる

☆念仏を唱えて[<sup>14</sup> 阿弥陀如来]に頼り、死後に<sup>ごくらくじやうど</sup>極楽浄土への生まれ変わりを願う

☆阿弥陀如来の像をおさめる阿弥陀堂が各地に建てられた

(例) <sup>ふじわらのよりみち</sup>藤原頼通が宇治(京都府)に建てた[<sup>15</sup> 平等院鳳凰堂]